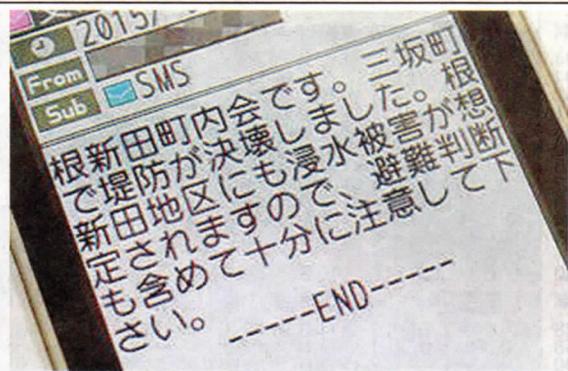


逃げ遅れ減らした 一斉メール送信



水害時に根新田町内会から送信されたメール

鬼怒川決壊あす2年

関連死六人を含む九人が死亡し、五千棟以上が全半壊した鬼怒川決壊から、十日で二年。大きな被害を出した常総市で当時、携帯電話などに一斉メール送信で独自に避難を呼び掛け、逃げ遅れを減らした町内会が、注目を集めている。国内各地から問い合わせがあり、町内会役員は「使える場面は多い。取り組みを広めるべきだ」と話している。(宮本隆康)



自宅ベランダのライブカメラを前に、当時の様子を語る須賀さん=いずれも常総市で

常総・根新田町内会の取り組み注目

刻々と情報を更新 防災無線の代役に

住民の逃げ遅れを減らすことに成功したのは、約百世帯が暮らす根新田町内会だ。

もともと行事などの連絡などのため、二〇一四年十月、事前登録した携帯電話やスマートフォンに、ショートメールで一斉送信するシステムを導入していた。電話より手間がかからないメリットがあり、都内の送信業者が一通十五円で提供している。

水害当日、須賀英雄事務局長(左)は、決壊前の午前六時すぎから、水位の上昇を知らせるメールを送信した。午後一時前の決壊後は、鈴木孝八郎会長(右)と文面を相談しながら「浸水が想定されます」「浸水が始まりました。動けない人は二階へ」などと送信して呼び掛けた。

道路の冠水で、公用車による防災無線放送はできず、地域に設置された防災無線は、聞こえなかった住民もいたという。町内の九割が浸水被害を受けていたが、メールを矢継ぎ早に送ったこともあり、他の地区に比べ、逃げ遅れる人は少なかったという。

住民の避難後も、須賀さんと鈴木さんは自宅二階に残った。浸水の高さや、水が引き始めて通れるようになった道路など、町内の様子を知らせ続けた。炊き出しや物資配布の連絡にも使った。送信回数は二週間でも五十通に上った。

水害後は、安否確認にも使えるように、システムに返信機能を追加した。さらに須賀さんは自宅二階ベランダに、「浸水の予兆が分かるように」と、鬼怒川とつながる千代田堀川に向けてライブカメラを設置。今年一月から、映像を町内会のホームページで見られるようにした。

鈴木さんは、市内の町内会役員の会合などで「絶対に

現新2人が支持訴え

行方市長選 あす投票

行方市長選は十日、市内二十一カ所で午前七時から午後六時まで投票され、午後八時から市立北浦中学校体育館で即日開票される。再選を目指す現職の鈴木周也さん(右)と、元玉造町議で不動産業の新入山口律

◇行方市長選立候補者

鈴木山口	周也45 山口	市長 不動産会社社長	無現 無新
------	------------	---------------	----------

後八時から市立北浦中学校体育館で即日開票される。再選を目指す現職の鈴木周也さん(右)と、元玉造町議で不動産業の新入山口律

理さん(左)の無所属二人選挙戦を繰り広げている。大勢判明は午後九時ごろ見通し。

少子化と人口減少を背に、両候補とも十八歳未満の医療費無料化、公共交通網の拡充などを公約に掲げている。鈴木さんは農地を守る仕組みづくり、山口さんは再生可能エネルギー導入推進も訴えている。有権者数は三万三千二百二人(二日現在)。(酒井健)

に役立つ」と一斉送信システムの導入を呼び掛けている。二つの町内会が導入を考えているという。須賀さんは「非常時に話の連絡網は回せないがメールなら、避難などの報提供や安否確認が簡にできる。使える場面多いのでは」と話している。